

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 38週 > 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークに、その後は週により緩急はあるものの減少し続けている / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 >
2003年の報告数は、過去4年間と比べて比較的少なく推移しており、第34週には大幅に増加したが、第36週から減少を続けている



病原体情報
P.5-6

患者から分離・検出された病原体報告 - ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 / 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス / エンテロウイルス71型 & コクサッキーA16型ウイルス / 無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス



速報
P.7-8

ミャンマーへの渡航者から分離されたインフルエンザウイルス - 沖縄県 / 上海への渡航者から分離されたインフルエンザウイルス - 北海道



海外感染症情報
P.9-11

ウエストナイルウイルスによるヒト患者数 - 米国、カナダ / マラリア、現地感染 - 米国(フロリダ州) / シンガポールの実験室でのSARS曝露



感染症の話
P.12-14

< 細菌性髄膜炎 >
細菌感染による髄膜炎の総称で、ウイルス感染が主体である無菌性髄膜炎と対照をなす



読者のコーナー
P.15



グラフ総覧(38週)
P.16-22



38週のデータ
P.23-31



発生動向総覧

第38週コメント 9月25日集計分

全数報告の感染症

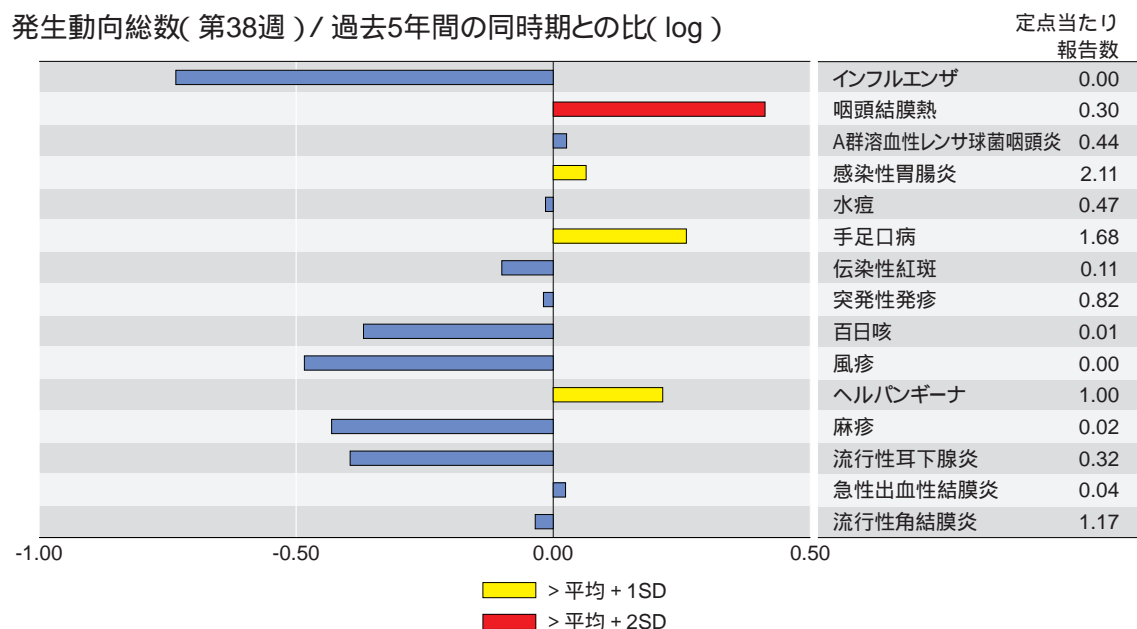
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ 2例(推定感染地域: インド1例、ベトナム1例)
細菌性赤痢 10例(推定感染地域: 国内1例、中国3例、インド2例、インドネシア1例、スリランカ1例、ウズベキスタン1例、キューバ1例)
腸チフス 1例(推定感染地域: インドネシア)
パラチフス 2例(推定感染地域: 中国1例、インド1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 45例(うち有症者20例)
報告の多い都道府県: 宮城県11例、宮城県6例
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(13例)、O157 VT2(8例)、O26 VT1(4例)、その他(20例)
年齢: 10歳未満(25例)、10代(5例)、20代(3例)、30代(3例)、40代(2例)、50代(3例)、60代(3例)、70歳以上(1例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢 5例(推定感染地域: 国内3例、フィリピン/タイ1例、不明1例)
急性ウイルス性肝炎 1例(B型(推定感染経路: 不明))
クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発例、65歳)
後天性免疫不全症候群 4例(AIDS 1例、無症候3例)
男性/女性: 3例/1例
推定感染経路: 性的接触3例(異性間1例、同性間2例)、不明1例
推定感染地域: いずれも国内
日本紅斑熱 2例(とともに兵庫県)
梅毒 5例(早期顕症I期1例、早期顕症II期1例、無症候3例)
破傷風 1例(96歳)
マラリア 1例(熱帯熱、推定感染地域: ガーナ)
レジオネラ症 1例(53歳)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第38週) / 過去5年間の同時期との比(log)

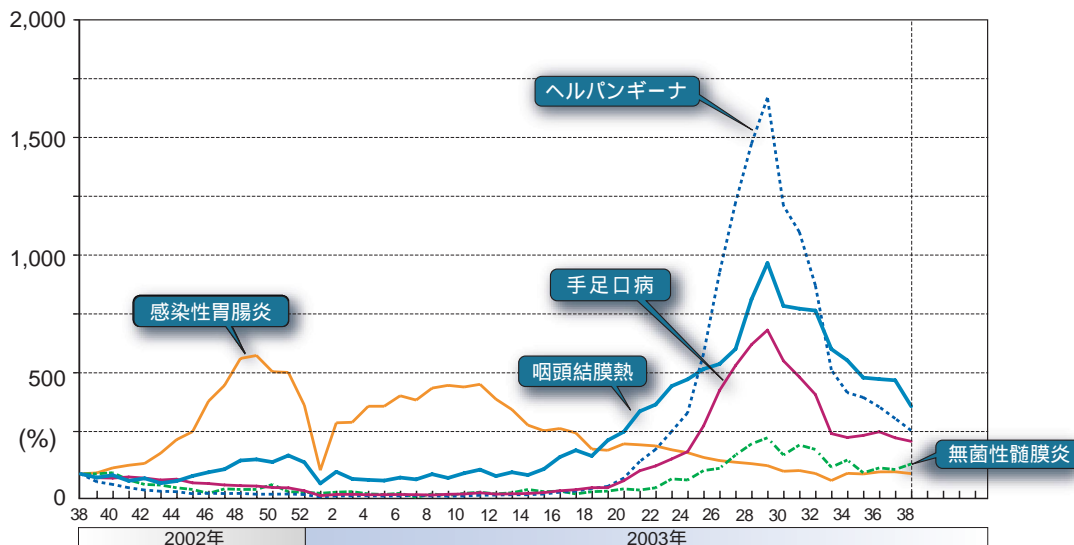


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

小児科定点報告疾患: 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は週により緩急はあるものの減少し続けている。第16週以降過去10年間の当該週と比較して最高の値であり、都道府県別では愛媛県(1.9)、高知県(1.2)、岐阜県(0.9)、大分県(0.9)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第29週をピークとし、5週続けて減少した後、2週続けて微増したが、その後は前週、今週と緩やかに減少している。過去10年間の当該週と比較して最も多く、都道府県別では岩手県(6.6)、秋田県(5.8)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は減少し続けており、都道府県別では宮崎県(3.7)、愛媛県(3.1)が多い。

基幹定点報告疾患: 無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加して0.13で、都道府県別では熊本県(1.1)、鳥取県(0.6)、岡山県(0.6)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微増して0.24で、都道府県別では山形県(1.7)、愛知県(0.9)、岐阜県(0.8)、大阪府(0.8)が多い。

主要疾患の過去1年間の週別定点当たり報告数の動き(第38週)



2002年第38週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、過去1年間の増減を表している。



注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症

2003年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、過去4年間と比べて比較的少なく推移してきた(図)。特に第31～33週は通常報告数が多い時期であるが、本年の報告数は各週ともに100例に満たず、少なかった。第34週には大幅に増加し、第35週にはほとんど不変であったが、第36週から減少を続けている。

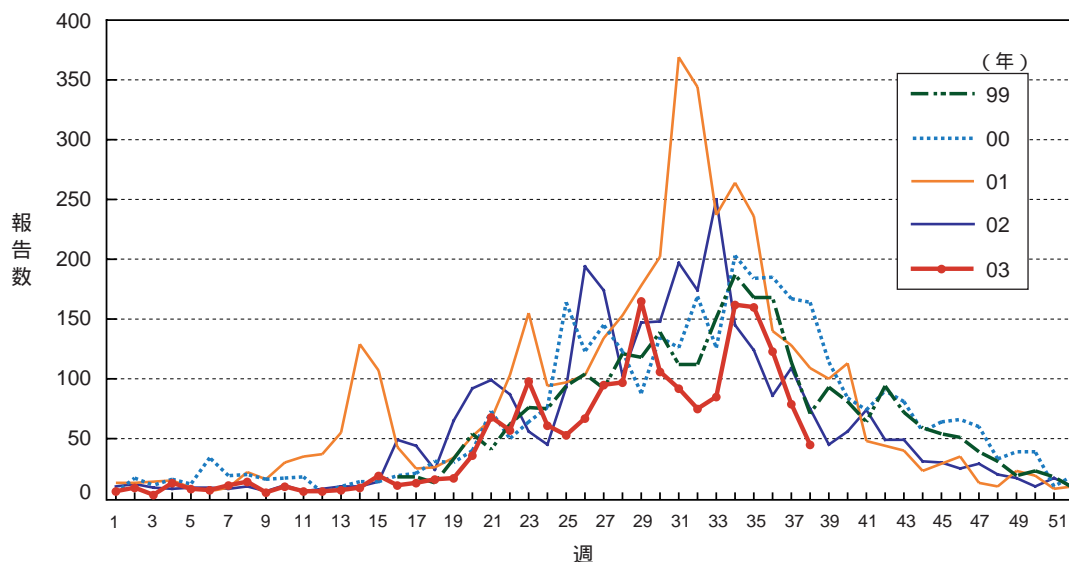
第38週の報告数は今のところ45例で(昨年同時期は64例)、性別では男性25例、女性20例であった。うち有症者は20例で、報告例全体の44%であった。都道府県別では多い順に宮崎県11例、宮城県6例などであった。5歳毎の年齢階級別にみると0歳、1～4歳、70歳以上は別扱い)、1～4歳16例、5～9歳7例と、1～4歳の報告数が多かった。また、保育所などでの集団発生も報告されている。

血清型についてはO157が26例、O26が4例であった。血清型とペロ毒素の型の組み合わせでは多い順に、O157 VT1・VT2が13例、O157 VT2が8例、O26 VT1が4例などとなっている。

2003年の第38週までの累積報告数は今のところ1,934例(昨年同時期は2,669例)となっており、昨年よりは少ないものの、集団発生の報告が続いていることから、依然として注意を要する。

第38週には4歳男児の溶血性尿毒症症候群(HUS)の報告があったが、今年に入って、死亡例(届け出時点)は2例が報告されている。

図 . 腸管出血性大腸菌感染症の週別報告数 (1999年4月～現在まで)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

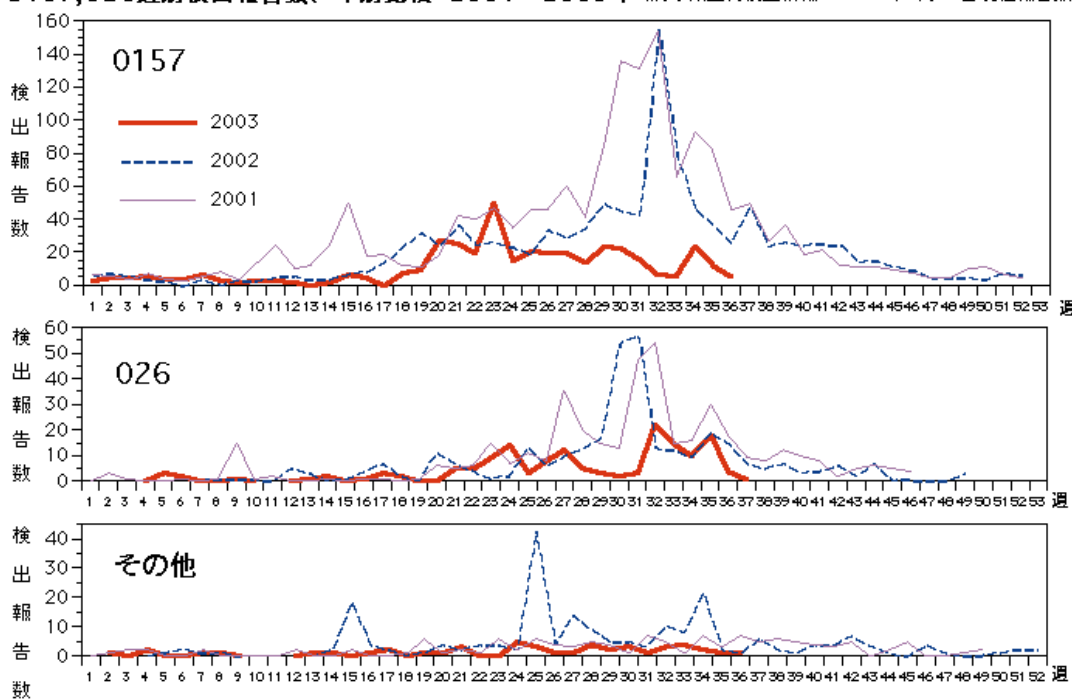
各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2003年9月25日現在報告分)

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2003年

検出総数は581件で、うちO157が381件、O26が154件、その他の血清型が46件報告されている。O157は第20週以降、岐阜県や兵庫県における集団発生からの検出報告を中心に増加したものの、第23週を除きいずれの週も30件未満の検出報告である。O26は、第32週に兵庫県の保育所における集団発生事例から、第35週に石川県の保育所における集団発生事例からの検出報告により増加した。最近では、O157が第36週に宮城県3件(すべてVT1&2)、静岡県2件(VT1&2が1件、VT2が1件)、O26が第36週に秋田県、宮城県、石川県、静岡県各1件(いずれもVT1)、第37週に静岡県1件(VT1)、OUT(O型別不能)が第36週に秋田県1件(VT1)で、いずれも散発または家族内発生事例からの検出報告である。

O157,O26週別検出報告数、年別比較 2001～2003年 (病原微生物検出情報: 2003年9月25日現在報告数)



Infectious Agents Surveillance Report

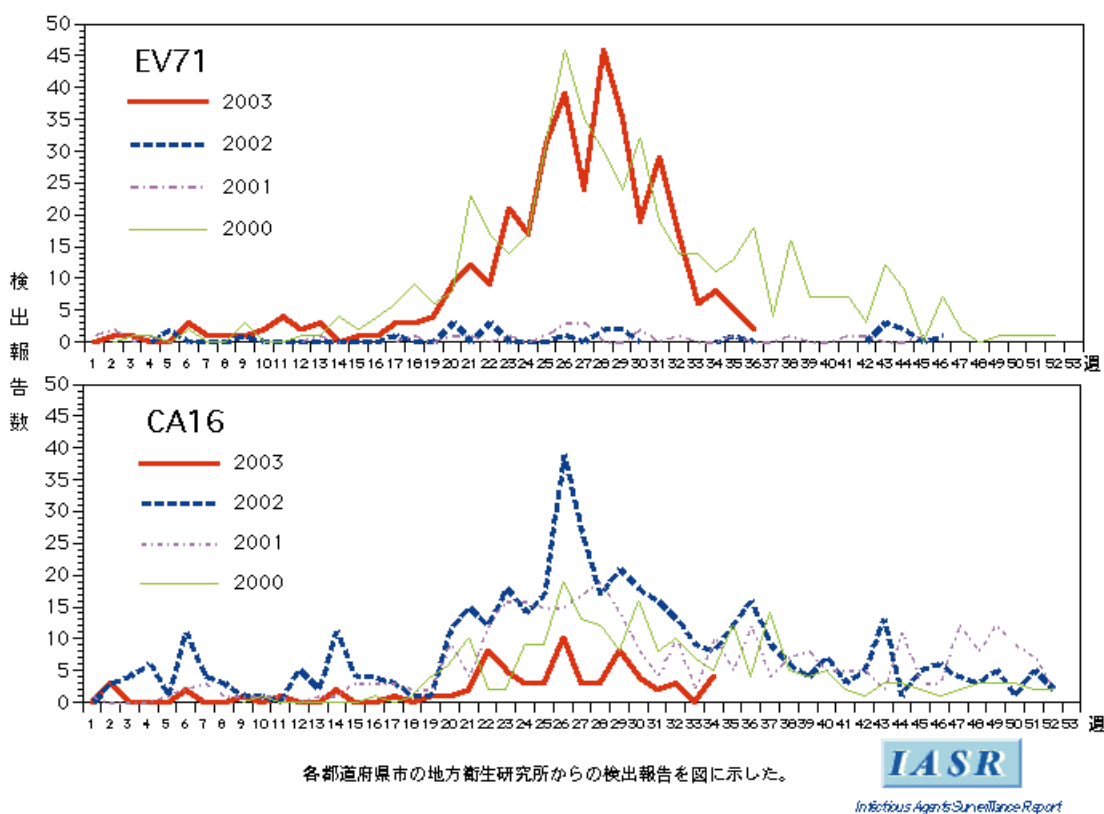
咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2003年

アデノウイルス3型(Ad3)が87件(大阪府20、三重県19、愛知県6、広島県6など)で最も多く、次いでAd2が39件(長野県8、大阪府7、広島県5など)、Ad1が17件(三重県3、大阪府3など)報告されている。その他にAd5が10件(三重県3など)、Ad7が9件(北九州市9)、Ad4が4件(大阪府、岡山県、愛媛県、鹿児島県各1)、Ad6が1件(島根県)、Ad37が1件(広島県)報告されている。

エンテロウイルス71型&コクサッキーA16型ウイルス 2003年

手足口病起因ウイルスであるエンテロウイルス71型(EV71)は362件、コクサッキーA16型ウイルス(CA16)は70件の分離が報告されている。昨年(2002年)はCA16の分離が多く、EV71の分離報告はわずかであったが、本年は第20週以降EV71が増加し、2000年以來3年ぶりにEV71が流行した。EV71は第28週をピークとして、23都府県(広島県58、山形県50、福島県48など)からの報告であるのに対し、CA16は目立ったピークはないものの、18府県(愛知県15、新潟県11、愛媛県9など)から報告されている。

週別EV71&CA16分離報告数、2000年～2003年 (病原微生物検出情報：2003年9月25日現在報告数)



無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2003年

エンテロウイルス71型(EV71)が42件(広島県11、神奈川県10、大阪府6、愛知県5など10都府県)、エコーウイルス(E)が371件(30型186、6型105、9型40、18型28、7型6、16型2、25型2、13型1、27型1)報告されている。E30は大阪府57、高知県25、奈良県24、滋賀県22、兵庫県12など近畿地方からの報告を中心に13道府県から、E6は大阪府36、新潟県24、千葉県12など13府県から、E9は香川県39、宮崎県1からそれぞれ報告されている。その他に、B群コクサッキーウイルスが54件(1型22、2型15、5型9、4型6、3型2)、ムンプスウイルスが16件、A群コクサッキーウイルスが12件(9型4、10型2、16型2、2型1、4型1、6型1、12型1)報告されている。



ミャンマーへの渡航者から分離されたインフルエンザウイルス - 沖縄県

2003年9月4日採取の検体よりB型インフルエンザウイルスが分離されたので報告する。患者はミャンマーに渡航歴のある28歳の女性で、滞在期間は不明であるが、9月1日まで旅行している。発症は9月1日で、SARSを心配して9月4日に県内中部の医療機関を受診した。症状は38.8の発熱、関節痛、筋肉痛、上気道炎、下痢などであり、インフルエンザと診断された。

9月6日、医療機関より搬入された喀痰についてウイルス分離を行った。MDCK細胞に接種後3日目にCPEが観察され、この培養上清について0.3%ガチョウ赤血球を用いてHA試験を行ったところ、HA価は128であった。

国立感染症研究所から分与された2002/03シーズン用インフルエンザウイルス同定キットを用いてHI試験を行った結果、抗血清A/New Caledonia/20/99(H1N1)、A/Moscow/13/98(H1N1)、A/Panama/2007/99(H3N2)、B/Shangdong(山東)7/97(ホモ価、各5,120、640、1,280、640)に対してはいずれもHI価<10であったが、B/Hiroshima(広島)23/2001(ホモ価640)に対してはHI価320を示したことから、B型インフルエンザウイルスと同定された。患者は旅行中に発症していることから、渡航先でB型インフルエンザウイルスに感染したものと考えられる。

B型インフルエンザウイルスは山形系統とビクトリア系統に大別されており、今回の分離株は山形系統のB/Hiroshima(広島)23/2001類似株で、2003/04シーズンワクチン株の系統とは異なることから、今後の動向に注意する必要がある。

今年のインフルエンザシーズン中にSARSの再流行が懸念されているが、インフルエンザはSARSと鑑別を要する疾患のうちのひとつであるため、海外渡航者におけるインフルエンザの確実な診断は重要と思われる。

沖縄県衛生環境研究所

平良勝也 系数清正 中村正治 久高潤 安里龍二

(IASR2003年10月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

上海への渡航者から分離されたインフルエンザウイルス - 北海道

上海への渡航中にインフルエンザウイルスに感染したと思われる症例がみられたので、報告する。

患者は恵庭市在住の女性(27歳)で、知人の結婚式に出席するため2003年8月1日上海に渡航し、4日まで友人2名とともに上海市内のウィークリーマンションに滞在していた。帰国後8月5日の早朝に発熱(38.5℃)し、頭痛、倦怠感、咽頭痛があったため近医を受診した。上海は以前に重症急性呼吸器症候群(SARS)の患者発生地域であったことから、患者はSARSコロナウイルス感染を心配していたが、6月14日以降流行地域指定は解除されていること、8月5日現在SARS患者は存在しないこと、および臨床所見から、SARSコロナウイルス感染は否定された。

8月5日、当所に咽頭ぬぐい液が搬入され、ウイルス分離、RT-PCRによる遺伝子診断および細菌検査が行われた。RT-PCRでは、インフルエンザウイルスA(H3)型陽性となり、渡航中インフルエンザに罹患した可能性が疑われた。ウイルス分離では、接種3日目にCaCo-2細胞に弱いCPEが認められたが、その後の細胞変性の進行状況からウイルスの増殖が不十分と判断し、盲継代した。2代目で強いCPEが現れたため、培養上清に対し0.5%モルモット赤血球を用いてHA試験を行ったところ、赤血球凝集反応が見られた。このため、国立感染症研究所から分与された2002/03シーズン用インフルエンザウイルス同定キットを用いてHI試験を行った結果、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1)血清(ホモ価320)、抗A/Moscow/13/98(H1N1)血清(ホモ価1,280)、抗B/Shandong(山東)7/97血清(ホモ価40)および抗B/Hiroshima(広島)23/2001血清(ホモ価320)ではいずれもHI価<10であったが、抗A/Panama/2007/99(H3N2)血清(ホモ価160)に対してHI価160を示したことから、患者はインフルエンザウイルスA(H3)型に罹患していたことが判明した。

北海道ではこの時期、インフルエンザの発生が報告されていないことから、上海への渡航中に感染したものと考えられる。

日本では、インフルエンザは気温の低い冬季に流行するが、熱帯地域や東南アジアでは時期によって流行規模に差があるものの、年間を通じて患者発生がある。近年、日本からの東南アジアへの海外旅行者は増加傾向にあり、また北海道は東南アジアからの観光客も多いことから、日本ではインフルエンザの流行が見られない夏場であっても、海外からインフルエンザウイルスが持ち込まれる可能性があると考えらるべきである。

さらに、今冬にはインフルエンザとSARSの混合流行も懸念されているが、感染初期におけるSARSコロナウイルスとの鑑別が流行阻止の鍵となり、ひいてはSARSパニックの回避にもつながるものと考えられる。

北海道立衛生研究所

伊木繁雄 佐藤千秋 長野秀樹

(IASR2003年10月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ (<http://www.forth.go.jp/>) をご覧下さい。

ウエストナイルウイルスによるヒト患者数 - 米国、カナダ

CDC 10月2日、ヘルスカナダ 10月1日

州	ヒト患者数	死亡者数
アラバマ	26	3
アリゾナ	1	
アーカンソー	11	
コロラド	1,991	36
コネチカット	9	
デラウェア	4	
フロリダ	32	
ジョージア	15	2
イリノイ	22	
インディアナ	6	
アイオワ	108	4
カンザス	44	1
ケンタッキー	10	1
ルイジアナ	67	1
メリーランド	21	3
マサチューセッツ	10	
ミシガン	1	1
ミネソタ	96	3
ミシシッピ	51	1
ミズーリ	38	2
モンタナ	207	2
ネブラスカ	999	15
ネバダ	1	
ニューハンプシャー	2	
ニュージャージー	17	1
ニューメキシコ	177	4
ニューヨーク	45	6
ノースカロライナ	19	
ノースダコタ	148	1
オハイオ	63	3
オクラホマ	46	
ペンシルバニア	91	1
ロードアイランド	3	
サウスカロライナ	1	
サウスダコタ	840	8
テネシー	8	
テキサス	356	12
ユタ	1	
バーモント	1	
バージニア	7	
ウィスコンシン	11	
ワイオミング	315	8
合計	5,921	119

5,843例の解析にて、3,777例 (65%) はウエストナイル熱、1,663例 (28%) はウエストナイル髄膜炎/脳炎、403例 (7%) は不明。

(米国CDCホームページ <http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm> より)

州	陽性疑い患者数*	陽性確定患者数	死亡者数
ノバスコシア	0	1 [^]	0
ケベック	13	2	0
オンタリオ	68	1 [^]	2 ^{^^}
マニトバ	108	8	2
サスカチュワン	603	18	3
アルバータ	6	224	0
ブリティッシュコロンビア	14 [^]	1 [^]	0
ユーコン	1 [^]	0	0
合計	813	255	7

* 陽性の確定にはさらに検査を必要とする。
[^] 地域外での感染と思われる症例。
^{^^} 9月3日に卒中で死亡した患者と9月5日に誤嚥性肺炎で死亡した患者の2名は、ウエストナイルウイルスの「陽性疑い患者」に含まれている。

(ヘルスカナダホームページ <http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspssp/wnv-vwn/> より)

マラリア、現地感染 - 米国(フロリダ州)

CDC/MMWR 2003年9月26日 / 52(38); 908-911

米国内で診断されるマラリア患者の大部分は輸入例で、患者はマラリアが常在流行している諸国への渡航歴のある人である。しかし、現地での蚊によって感染伝播されたマラリアの小規模流行の発生も続いている。米国では1970年にマラリア根絶が確認されたにも関わらず、1996年7月にフロリダ州Palm Beach郡から報告された2例を含め、1992年以降、現地感染と考えられるマラリア流行11件(患者数20例)がCDCに報告されている。

この報告は、2003年7~8月の間にフロリダ州Palm Beach郡で発生した現地感染による三日熱マラリア患者7例の調査結果を記述する。マラリア流行地域への渡航歴のある発熱患者の鑑別診断でマラリアを考慮するだけでなく、臨床医は、海外渡航歴がなくともその他の明確な原因がない間歇的な発熱、悪寒、発汗を呈している発熱患者の病因の1つとして、マラリアを考慮すべきである。

症例報告1~7例(略)

7例の疫学調査結果:患者7例とも以前のマラリア罹患歴、最近の輸血、臓器移植、静脈注射による薬物使用歴はなかった。6例はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。7例全員がPalm Beach国際空港から10マイル以内のWest Palm Beach地区に居住していた。患者間に共通する行動や患者相互の関連はなかった。

検査結果:鏡検およびリボソームRNA遺伝子のPCR検査で、三日熱マラリア感染が確認された。また、原虫の遺伝子型検査で、患者7例全例が三日熱マラリア原虫の同じ株に感染したことが確認された。

媒介蚊調査結果:患者自宅の周囲1マイル以内で蚊族の捕獲が行われた。CDCにおいて、採取された*Anopheles quadrimaculatus*(n=33)および*An. crucians*(n=425)が検査された。これらでマラリア原虫は確認されなかった。

シンガポールの実験室でのSARS曝露

シンガポール保健省/プレスリリース 2003年9月23日

http://app.moh.gov.sg/sars/news/update_details.asp?id=1&mid=8260

国内および海外の専門家からなる11名の調査委員会は保健省から、(a)今回のSARS患者の疫学データ、(b)シンガポールのBSL(バイオセーフティーレベル)3の研究所におけるバイオセーフティー要求条件とその実施状況、についての調査を依頼された。責任者は、WHOバイオセーフティー専門家のAntony Della-Porta博士であった。委員会は調査を完了し、同省に報告書を提出した。

疫学調査:

調査結果から委員会は、今回の患者は、本人が働いていた環境保健研究所(EHI)で感染した可能性が最も高いと結論した。

不適切な実験操作と、実験室内でのウエストナイルウイルスとSARSコロナウイルスの交差汚染がこの大学院生の感染へとつながった。その他の感染源についての証拠は得られなかった。

委員会の結論は、実験室のSARSコロナウイルス株と患者から分離されたウイルス株の遺伝子配列解析結果からも裏付けられた。両ウイルス株の核酸配列は近似していた。

委員会はまた、二次感染の証拠はなく、SARSの単発例であったことを確認した。

バイオセーフティー基準：

委員会はまた3カ所のBSL3研究所で、バイオセーフティーについてのハード面と実際の運用に際し、広範囲に調査した。

委員会は、この機会に、シンガポール国内の研究所でバイオセーフティーについての国際的な基準を満たすよう、国家レベルの法律的な枠組みを構築すべきであると勧告した。バイオセーフティー基準との隔たりが確認された点については、委員会はそれを改善するよう特別勧告を行った。詳細は報告書に記載されている。

特に委員会は、構造上の統合性と実験手技の両面をカバーする実験室の認定証の必要性を強調している。全てのBSL3施設に対し、定期的な監査も行うべきである。能力に基づいたバイオセーフティーに関するトレーニングも採用し、BSL3施設に関係する全員が適切なトレーニングを受ける必要がある。

今後の対応：

保健省は関係当局と協力して、委員会の勧告を実施していく。報告書の全文は以下で入手できる。

<http://www.moh.gov.sg/sars/pdf/Report_SARS_Biosafety.pdf>



感染症の話

細菌性髄膜炎

細菌性髄膜炎(Bacterial meningitis)は細菌感染による髄膜炎の総称、すなわち疾患群であるが、通常結核性髄膜炎はこの範疇に含めない。化膿性髄膜炎ともよばれ、ウイルス感染が主体である無菌性髄膜炎と対照をなす。診断にあたっては、可能な限り病原診断を行うことが望ましい。抗菌薬療法の発達した現代にあっても、発症すれば致死率は高く、また救命できても重篤な後遺症を残すことがあり、特に小児においては侮れない感染症である。迅速な診断と適切な治療の早期開始が鍵である。

疫 学

わが国における細菌性髄膜炎患者の発生状況は、1981年7月に開始された感染症サーベイランス事業(現在の感染症発生動向調査事業)によって、定点医療機関(以下、定点)からの報告数として把握され、年間の累積定点当たり報告数は1980年代では1.0人から徐々に減少し、1990年代では0.5人程度であった。しかし、この間、報告単位が週 月 週と変わったり、定点数も変わったりしているため、本疾患の長期的発生状況の変化をどの程度反映できているのかは定かでない。

1999年4月施行の感染症法下における感染症発生動向調査によると、年齢別では、5歳未満(0歳及び1~4歳)の報告が多く全体の約半数を占め、それ以降の年齢では減少しているが、70歳以上ではまた多くなっている。季節に関してはほとんど差異がみられていない。原因菌に関してはインフルエンザ菌、肺炎球菌の順となっている。

細菌性髄膜炎の一つである髄膜炎菌性髄膜炎は世界的に分布するが、特にアフリカ中央部のいわゆる髄膜炎ベルトといわれる、西はセネガルから東はエチオピアまでの地域において流行が続いている。そこでは、主にサバンナ地帯で乾期(12~6月)に多くみられ、その血清型はほとんどA群である。欧米先進国でも時に流行がみられている。2001年に、メッカでのイスラム教徒の巡礼(Haj : ハッジ)においては、帰国してからW135群髄膜炎菌による発症が英国その他のヨーロッパ諸国でみられ、問題となった。わが国においては、流行性脳脊髄膜炎の名称で1918年に法定伝染病に指定された。患者報告数は1945年の4,384人をピークに減少し、特に1960年代以降急激に減少した。現在は感染症法で定める4類感染症全数把握疾患に分類されており、報告数は1999年(4月 ~)11例、2000年15例、2001年8例、2002年8例である。

インフルエンザ菌によるものに関しては、欧米でtype b(Hib)に対するワクチンが使われている国では発生数は激減しているが、我が国においては特に小児における原因菌として重要である。

病原体

病原体(原因菌)は多種類あるが、年齢や基礎疾患によって次のように特徴がある。

- ・新生児～生後3カ月乳児: B群レンサ球菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌、リステリア菌
- ・生後3カ月以降の乳児～幼児: インフルエンザ菌(ほとんどがHib)、肺炎球菌、黄色ブドウ球菌
- ・年長児～青年期: 肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌
- ・成人: 肺炎球菌、髄膜炎菌
- ・高齢者(50歳以上): 肺炎球菌、グラム陰性桿菌、リステリア菌

また、免疫能低下の状態では肺炎球菌、緑膿菌などのグラム陰性桿菌、リステリア菌、黄色ブドウ球菌(MRSA)などがみられ、脳室シャント後であれば黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌などが多くみられる。

感染経路は多くの場合飛沫感染であり、原因菌が上気道あるいは呼吸器感染病巣を經由して侵入し、血行性に髄膜に到達する。新生児のB群レンサ球菌感染症の場合には、産道感染も考えられている。その他に、リステリア菌が腸管から侵入したり、粘膜や皮膚に付着している黄色ブドウ球菌や表皮ブドウ球菌が、カテーテルを介して血行性に髄膜に到達することもある。

臨床症状

多くは発熱、頭痛、嘔吐などを示し、進行すると意識障害、痙攣などがみられる。また、そのような経過を明瞭に示さずに敗血症の形を取る場合や、急速に悪化する電撃型もある。年齢が低いほど症状は非特異的であり、新生児や乳児では発熱以外の症状として不機嫌、食欲(哺乳力)の低下などが目立つこともある。髄膜刺激症状として項部硬直やKernig徴候などがあるが、新生児・乳児・幼児では必ずしも明瞭ではない。そのような場合、大泉門の膨隆がみられることも多く、診断の助けとなる。

一般血液生化学検査では、核の左方移動を伴う白血球数増多がみられ、CRP値は高度の上昇を示す。髄液検査では髄液圧の上昇、主に多形核白血球からなる白血球数の増多、蛋白量の増加、糖量の減少などがみられる。

病原診断

髄液沈渣のグラム染色を行い検鏡する。菌の同定は不可能なことが多いが、グラム陽性か陰性か、球菌か桿菌かの区別からある程度の推定はでき、抗菌薬選択のヒントとなる。また、迅速診断として、ラテックス凝集法による抗原診断も実用化されているが、現在この対象となるのは肺炎球菌、B群レンサ球菌、Hib、髄膜炎菌A、B、C群、K1抗原陽性大腸菌などである。これらは、抗菌薬投与後で検鏡で菌が確認できない場合や、培養陰性の場合などにも有用である。

以上のことで陽性所見が得られても、確定診断のためには細菌培養が必要である。また、血液培養で検出される場合も多い。得られた細菌に関しては、薬剤感受性試験を行う。

治療・予防

臨床症状、髄液所見などから細菌性髄膜炎の疑いがある場合、あるいは、無菌性髄膜炎様であっても細菌性も否定しきれず、全身状態が重篤な場合などには、細菌学的に確定診断がなされる前から抗菌薬療法を開始する必要がある。その際には、年齢、基礎疾患、発症状況などを考慮して可能性ある原因菌を想定し、それに合った抗菌薬を経静脈的に投与する。また、抗菌薬の選択に当たっては、全国的な耐性菌の動向、所属する医療機関の耐性菌の動向なども考慮する。

抗菌薬療法に際しては、特に肺炎球菌とインフルエンザ菌の場合、耐性の問題が大きい。肺炎球菌の場合、ペニシリン感性であれば結晶ペニシリンGカリウム、アンピシリン、セフトキシムなど、耐性であればパニペナム/ベタミロン合剤などがすすめられる。また、インフルエンザ菌の場合、アンピシリン感性であればアンピシリン、耐性であればセフトキシムを用いる。薬剤感受性が不明の段階では、耐性と仮定して治療する。その他、B群レンサ球菌、髄膜炎菌では結晶ペニシリンGカリウム、アンピシリン、セフトキシムなど、リステリア菌ではアンピシリンが選択される。原因菌が判明する前の治療としては、アンピシリンとセフトキシムの併用、あるいはパニペナム/ベタミロン合剤が一般的であるが、セフトキシムとパニペナム/ベタミロン合剤を併用することもある。

予防としては、感染者からの伝播を避けることである。細菌性髄膜炎の原因菌に対するワクチンで国内で唯一市販されているのは、23価の肺炎球菌多糖体ワクチンである。欧米ではHib、髄膜炎菌のワクチンも認可されている。

感染症法における取り扱い

細菌性髄膜炎は4類感染症定点把握疾患であり、全国約500の基幹定点から毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を全て満たすもの

1. 以下の臨床症状を呈するもの
 - ・発熱、頭痛、嘔吐を主な特徴とする
 - ・項部硬直、Kernig徴候、Brudzinski徴候などの髄膜刺激症状(いずれも新生児や乳児などでは臨床症状が明らかではないことが多い)
2. 以下の検査所見を有すること
 - ・髄液細胞数の増加(多核球優位であることが多い)
 - ・髄液蛋白量の増加

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

《備考》

- ・原因となる病原体が病原体診断や血清学的診断によって判明した場合には、病原体の名称についても併せて報告すること

なお、髄膜炎菌性髄膜炎は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。

(国立感染症研究所感染症情報センター 多田有希・岡部信彦)



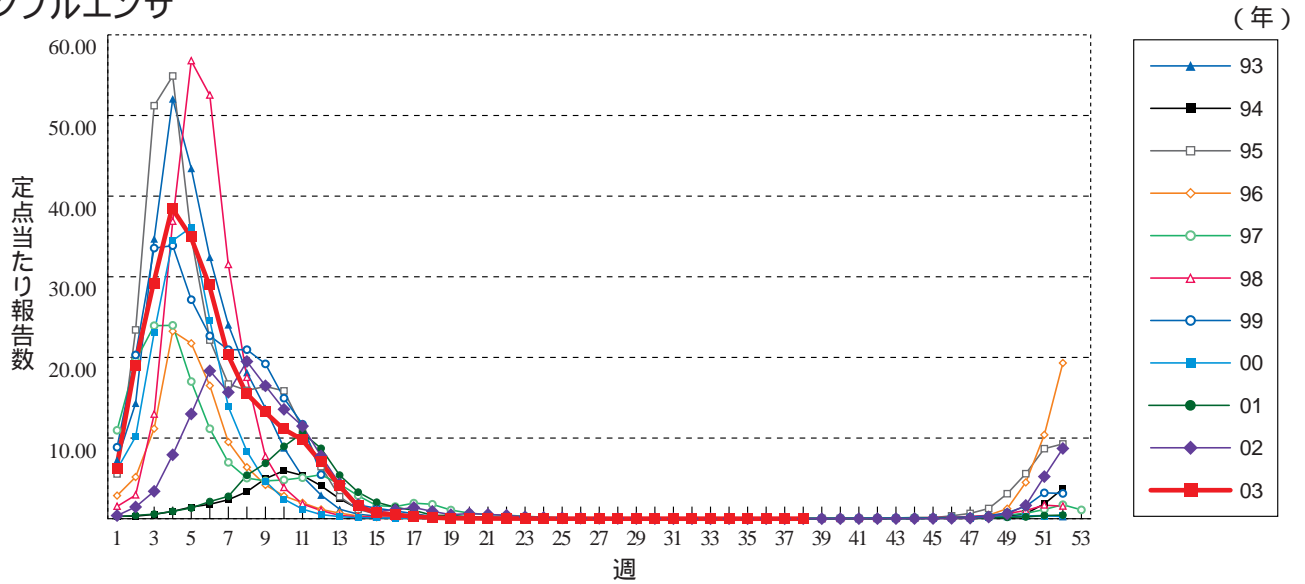
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

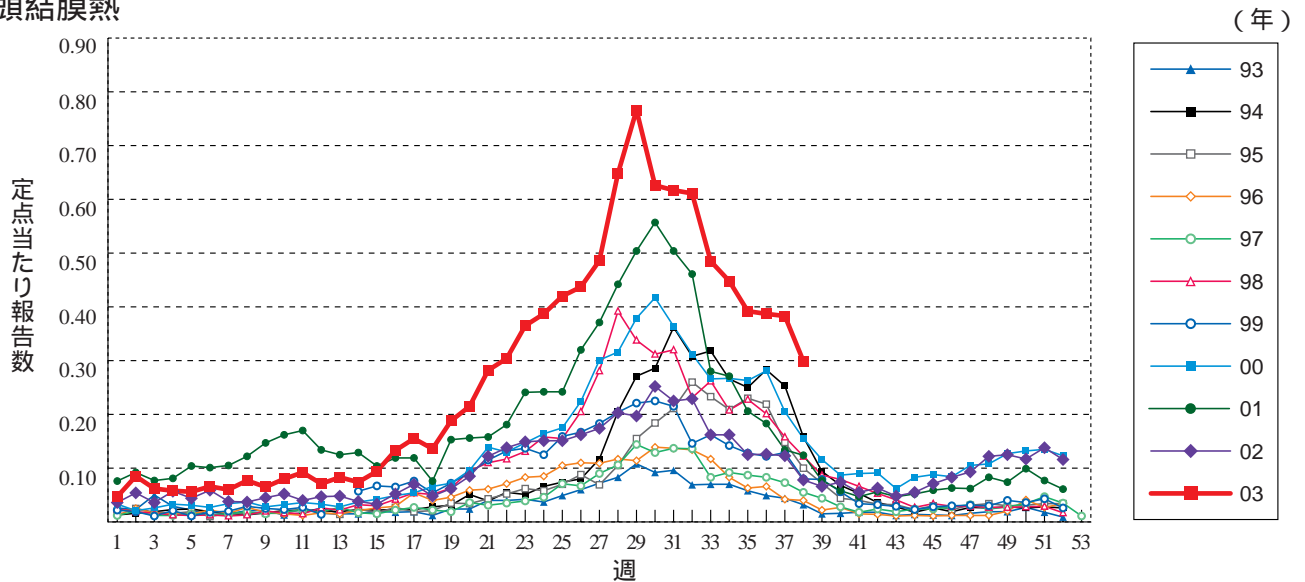
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(38週)

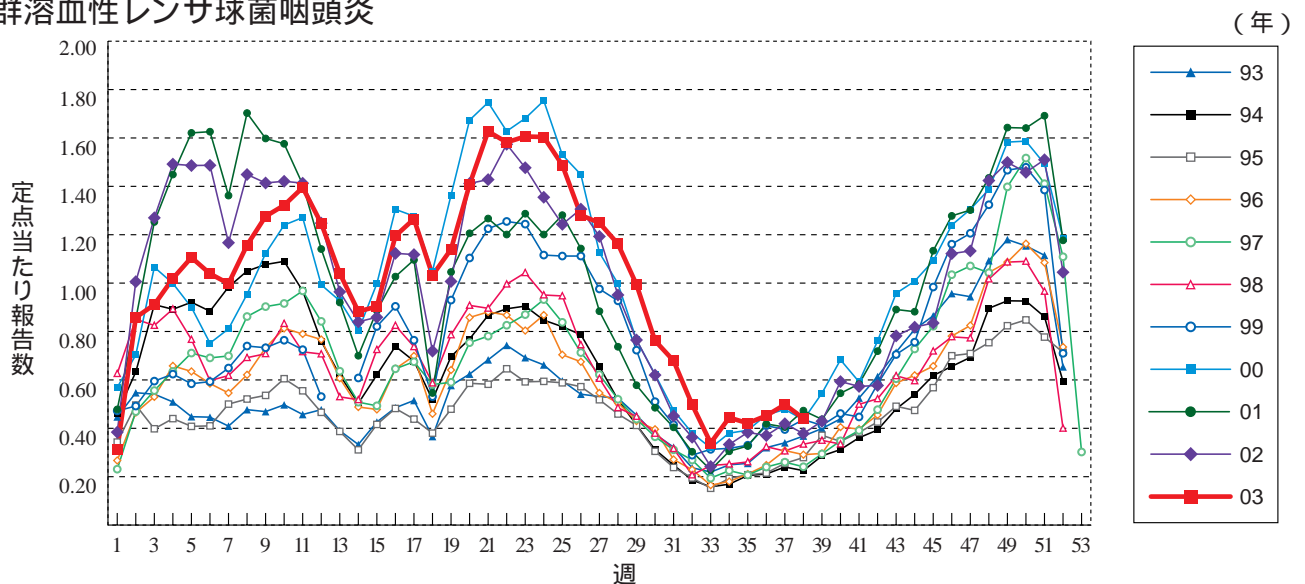
インフルエンザ



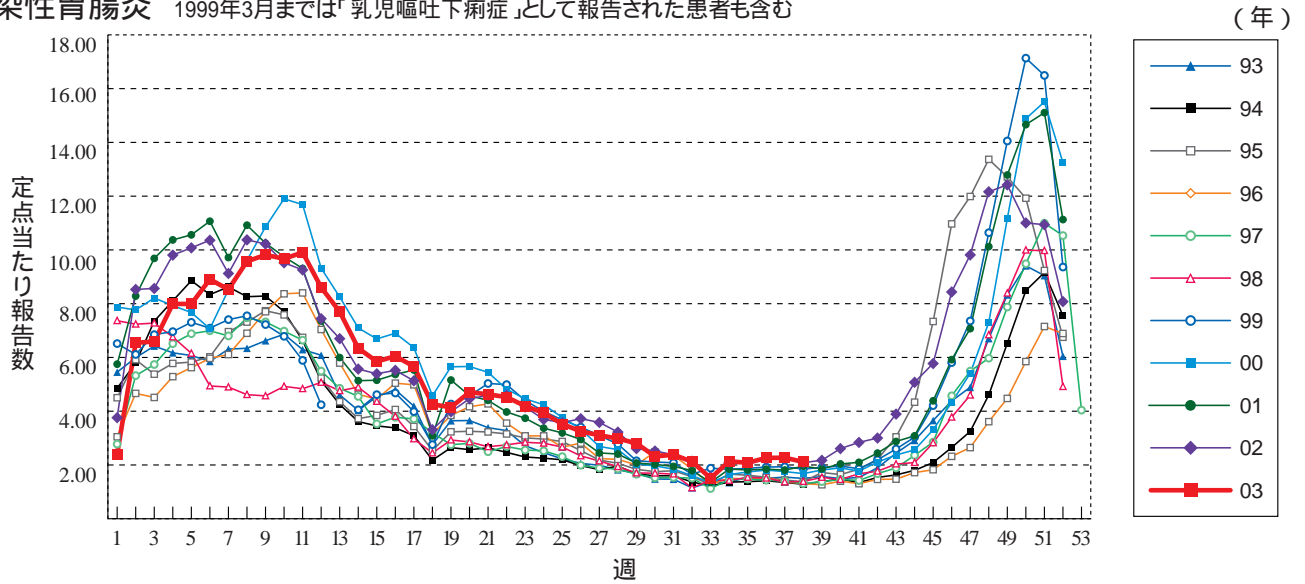
咽頭結膜熱



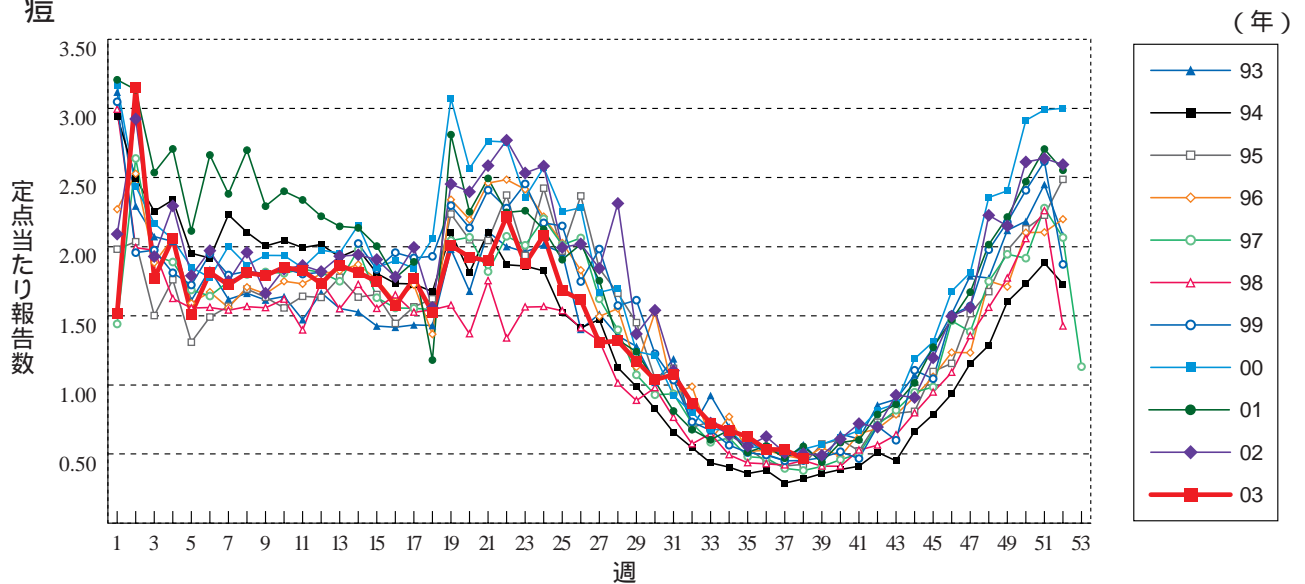
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



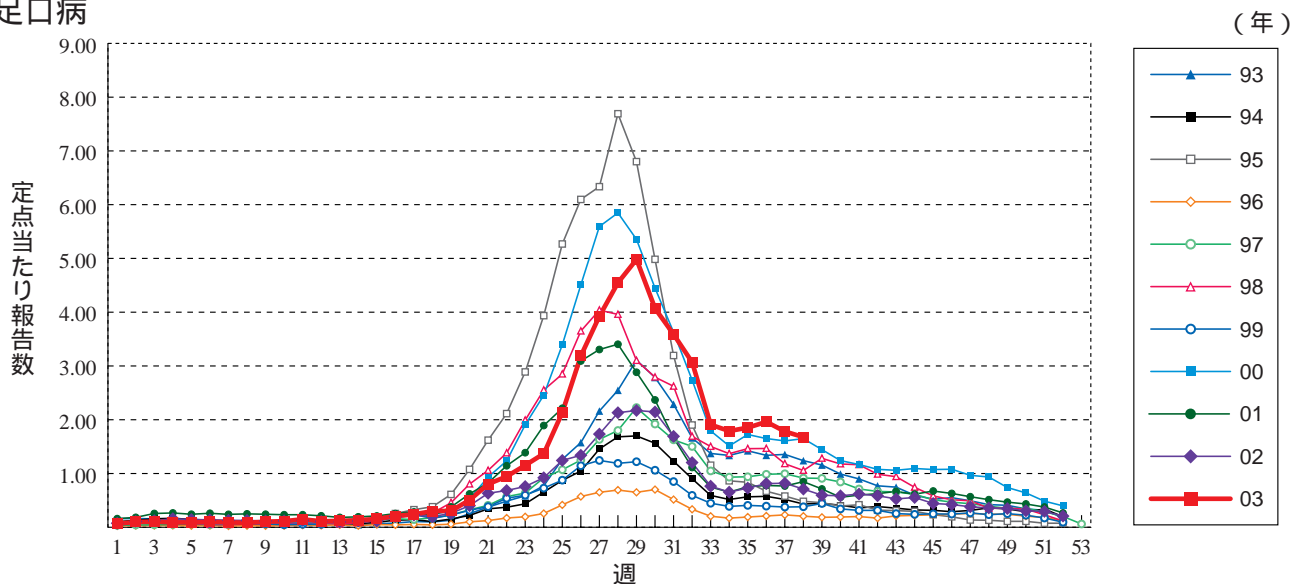
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



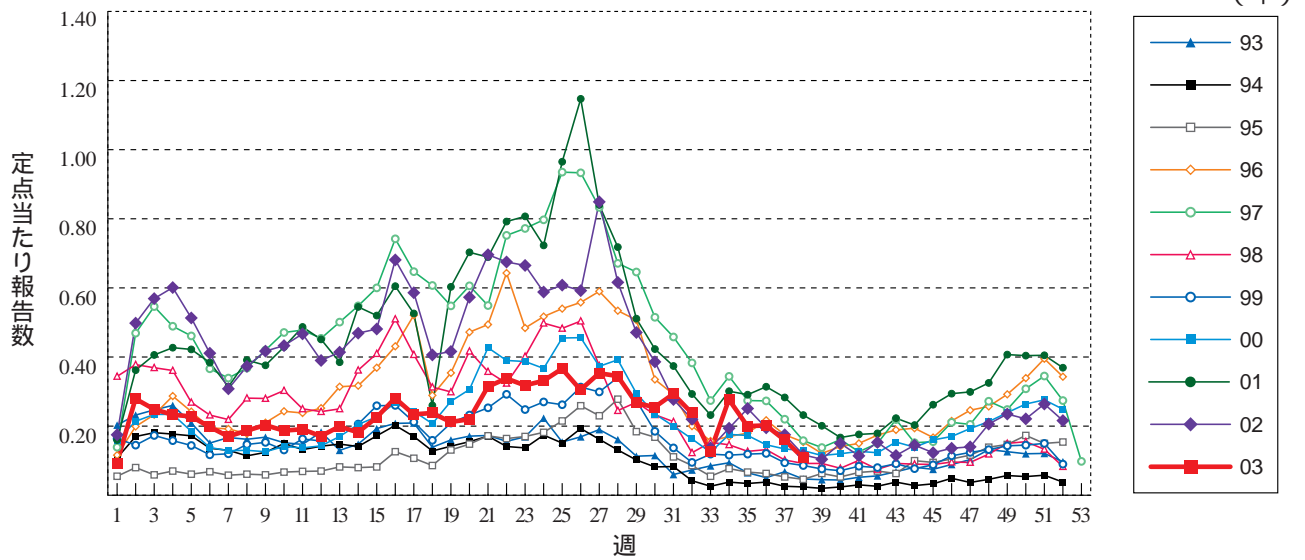
水痘



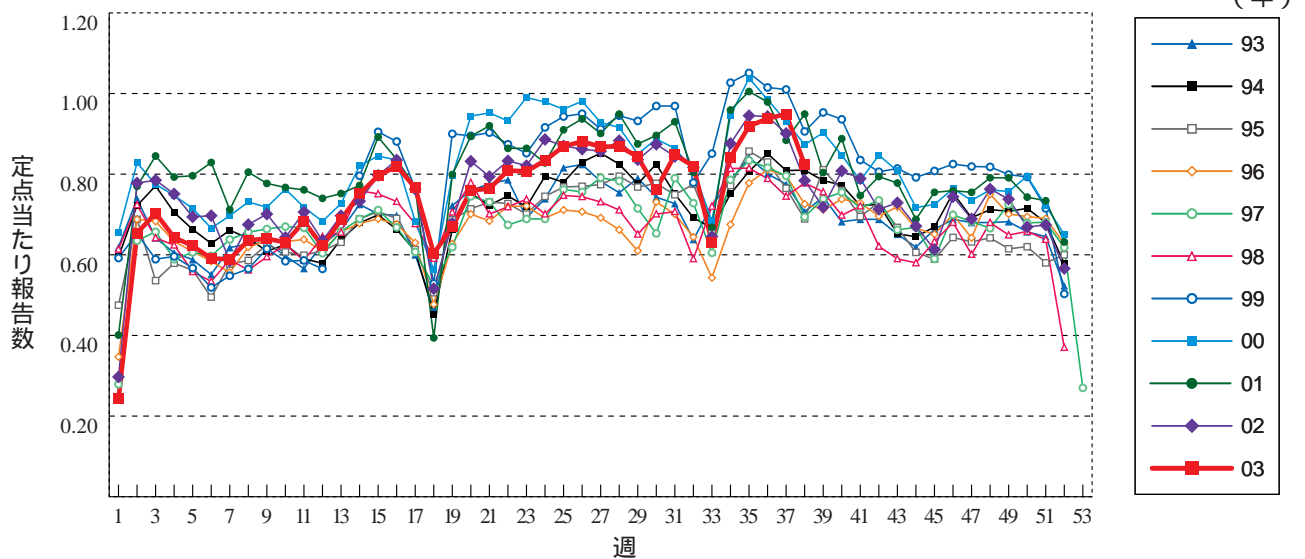
手足口病



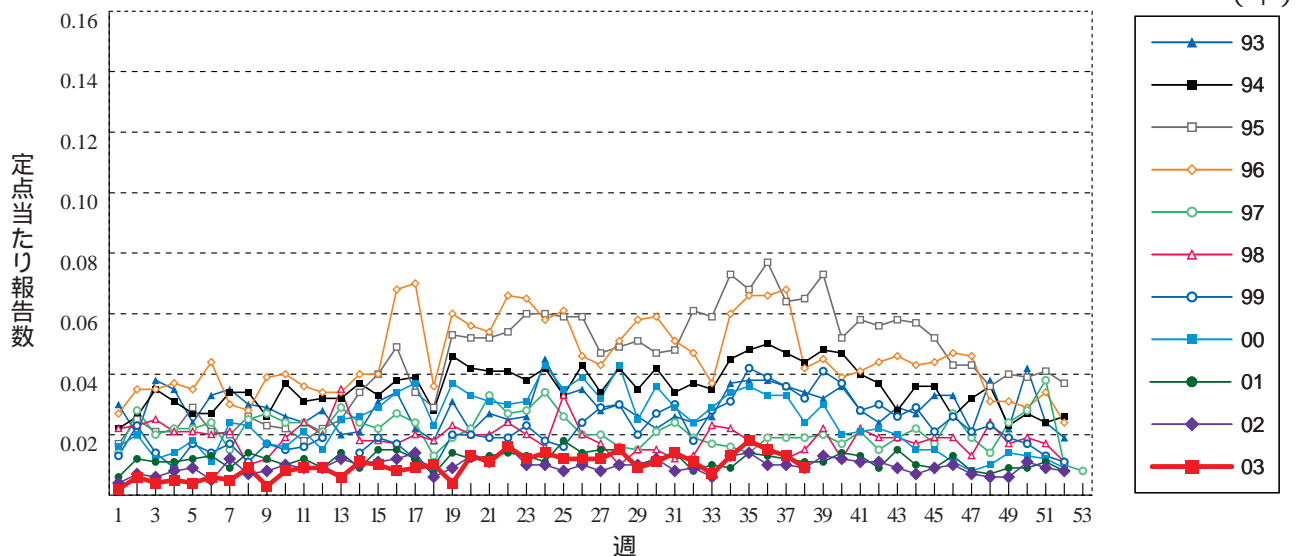
伝染性紅斑



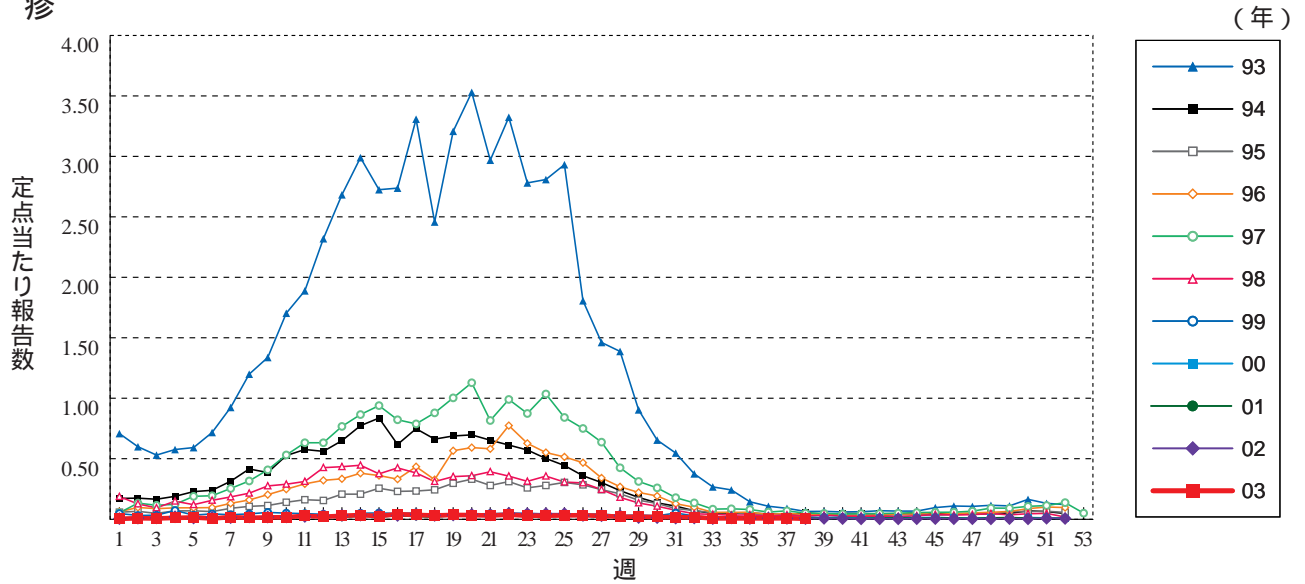
突発性発疹



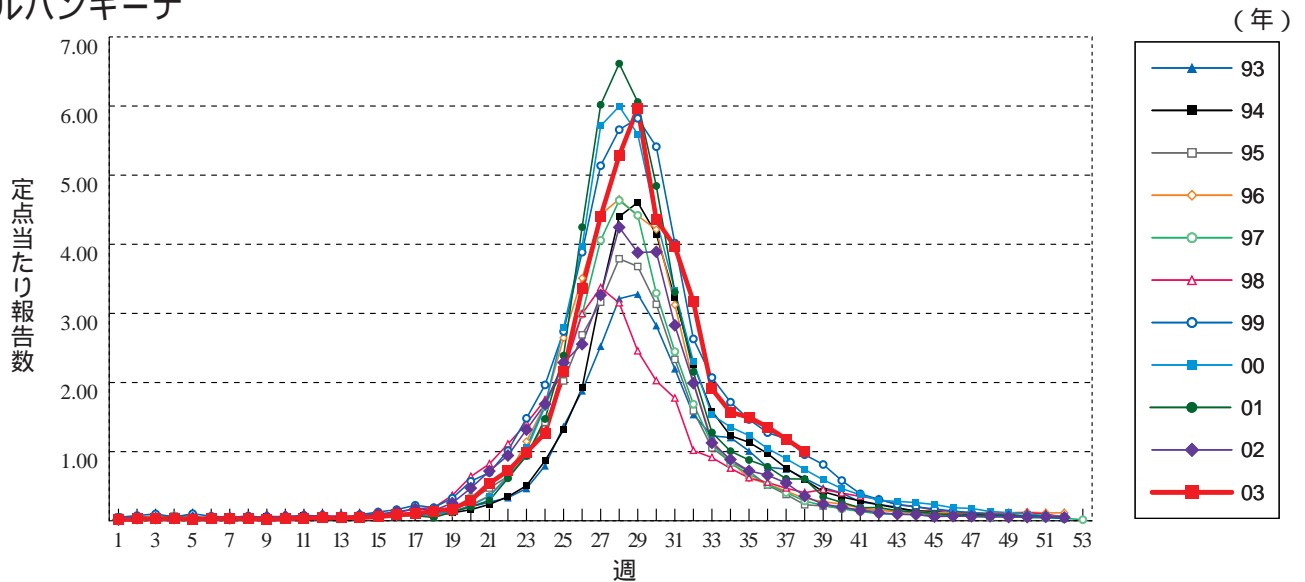
百日咳



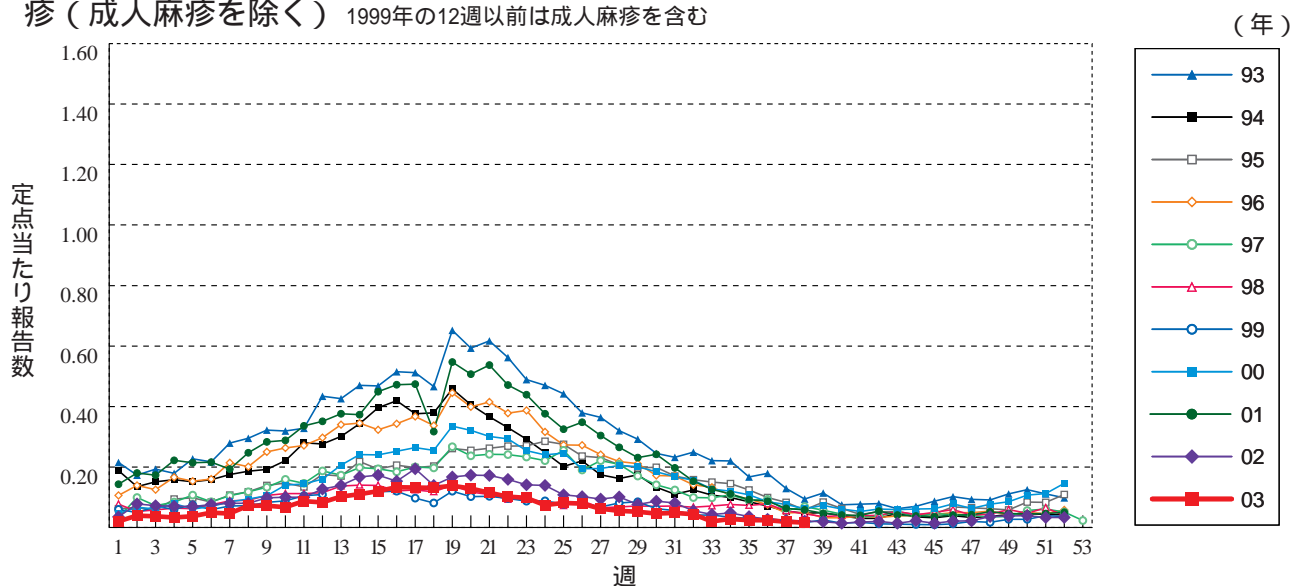
風 疹



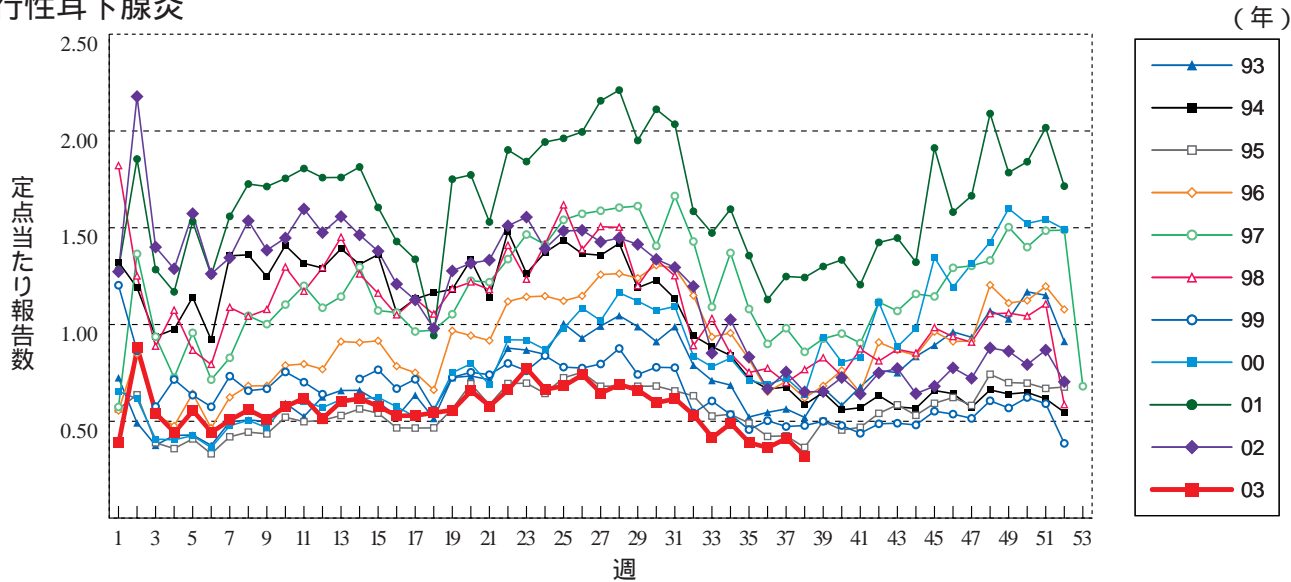
ヘルパンギーナ



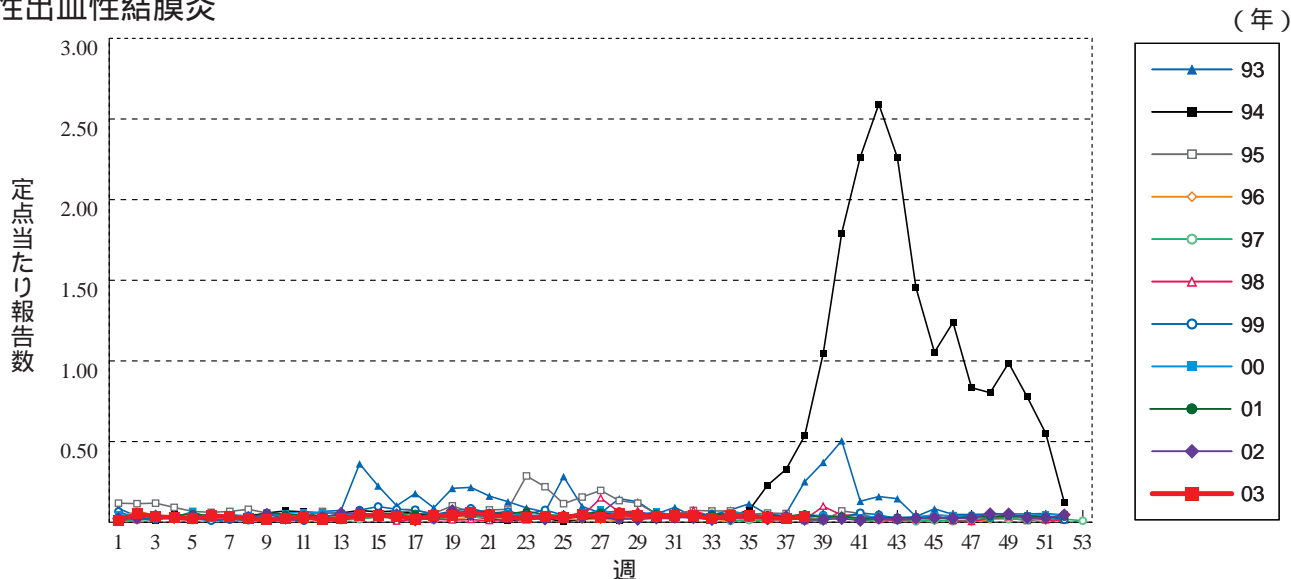
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



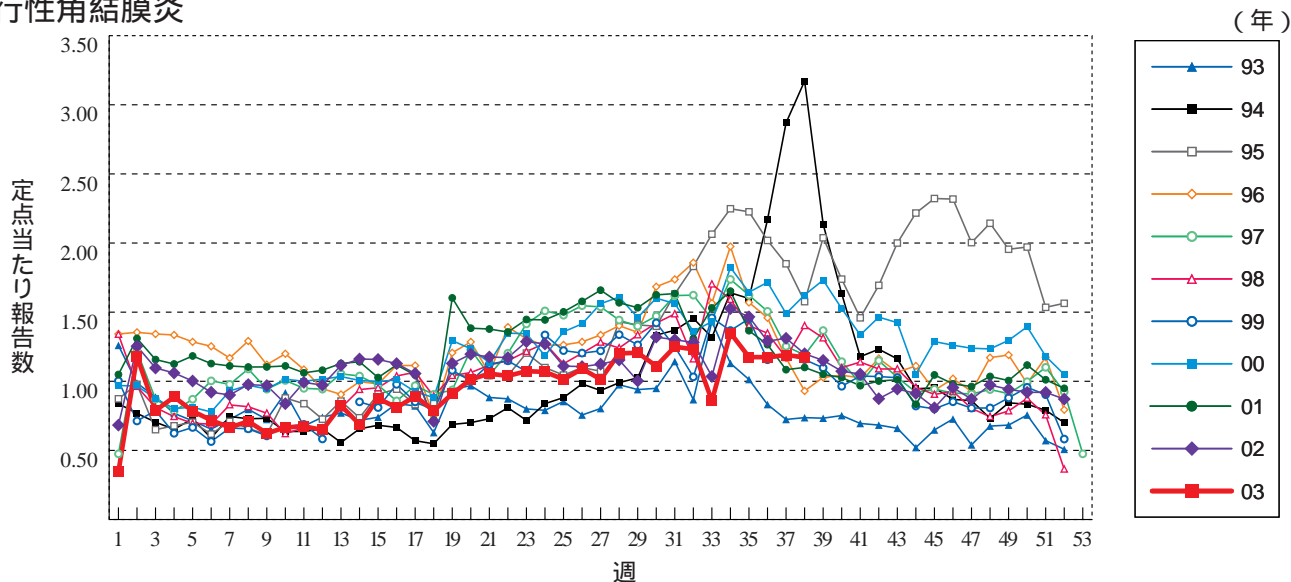
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

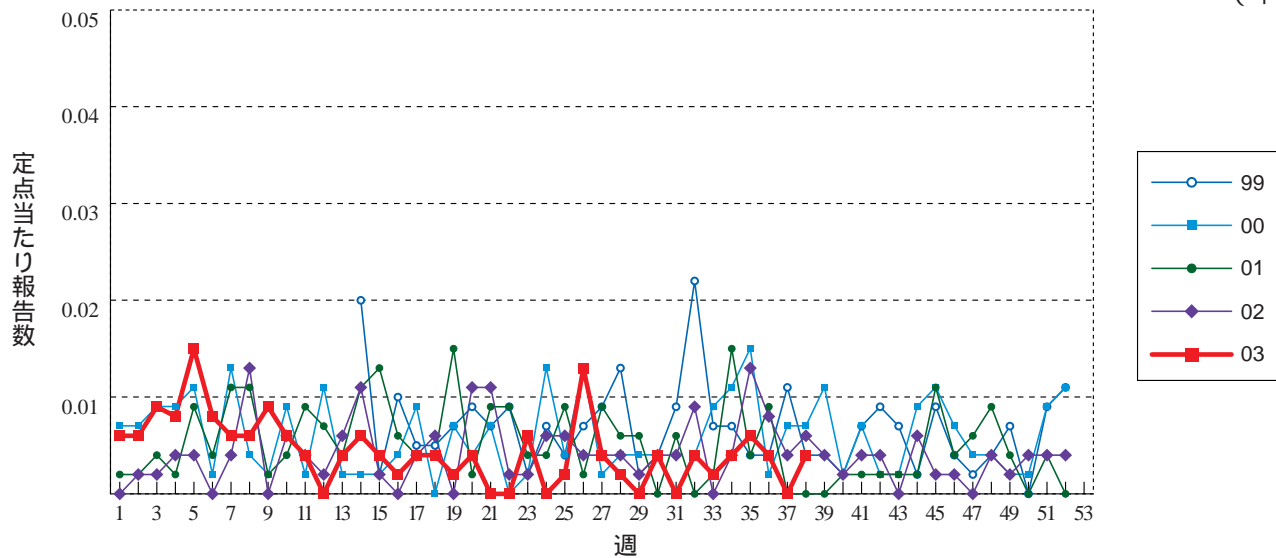


流行性角結膜炎



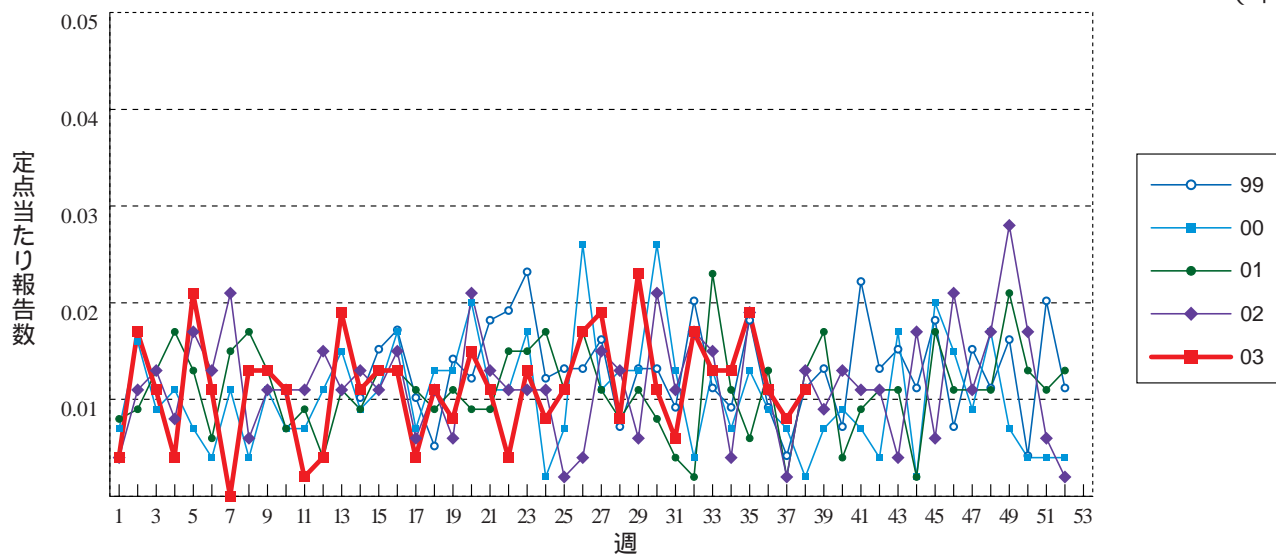
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



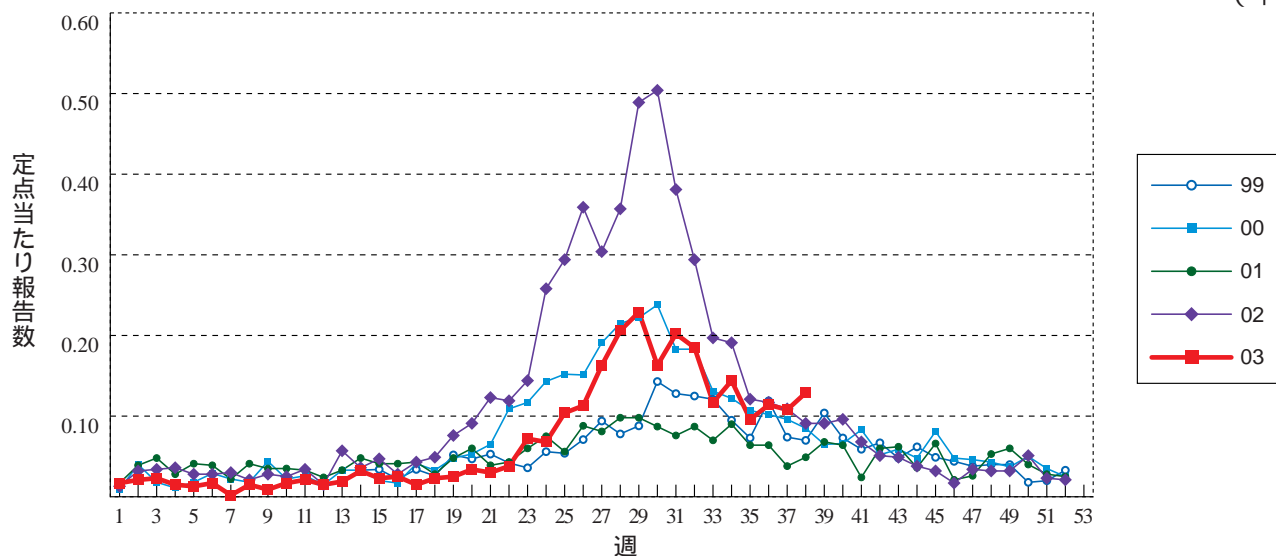
細菌性髄膜炎

(年)



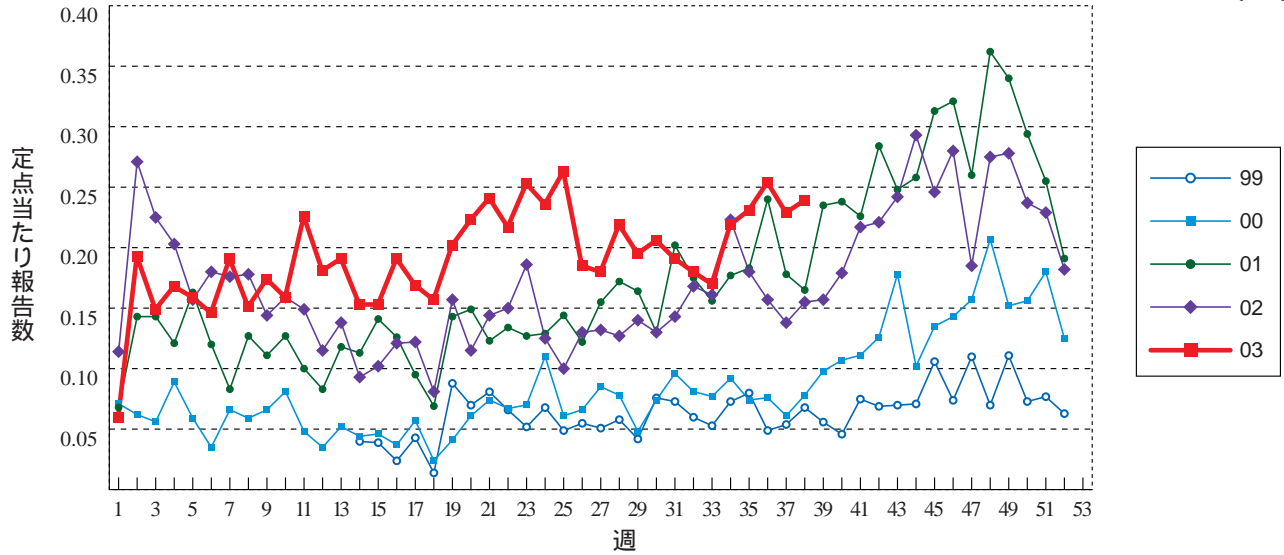
無菌性髄膜炎

(年)



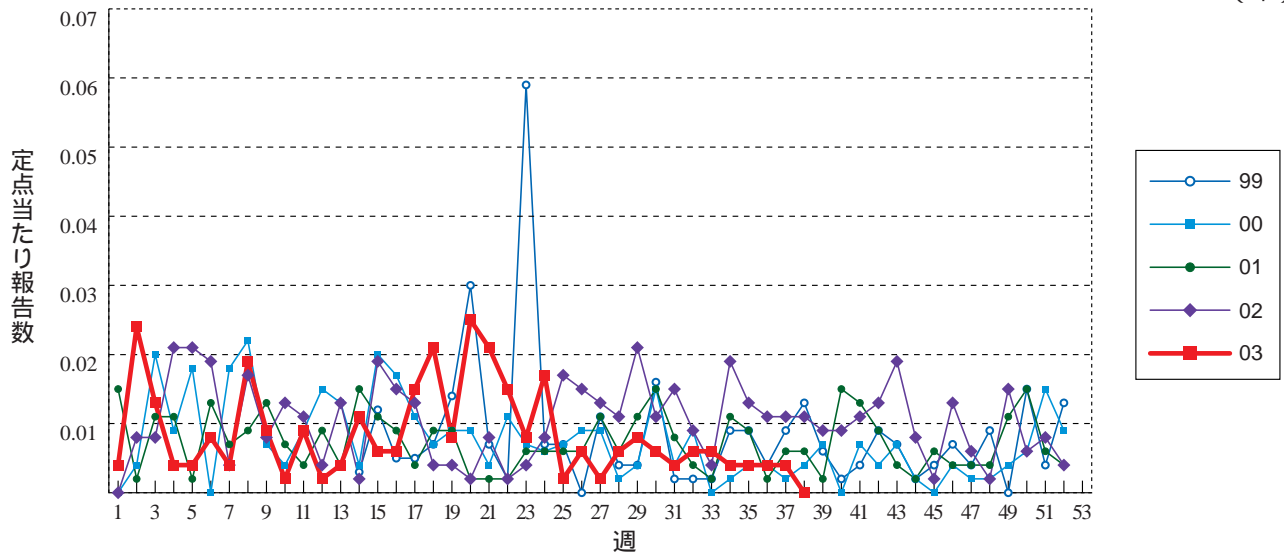
マイコプラズマ肺炎

(年)



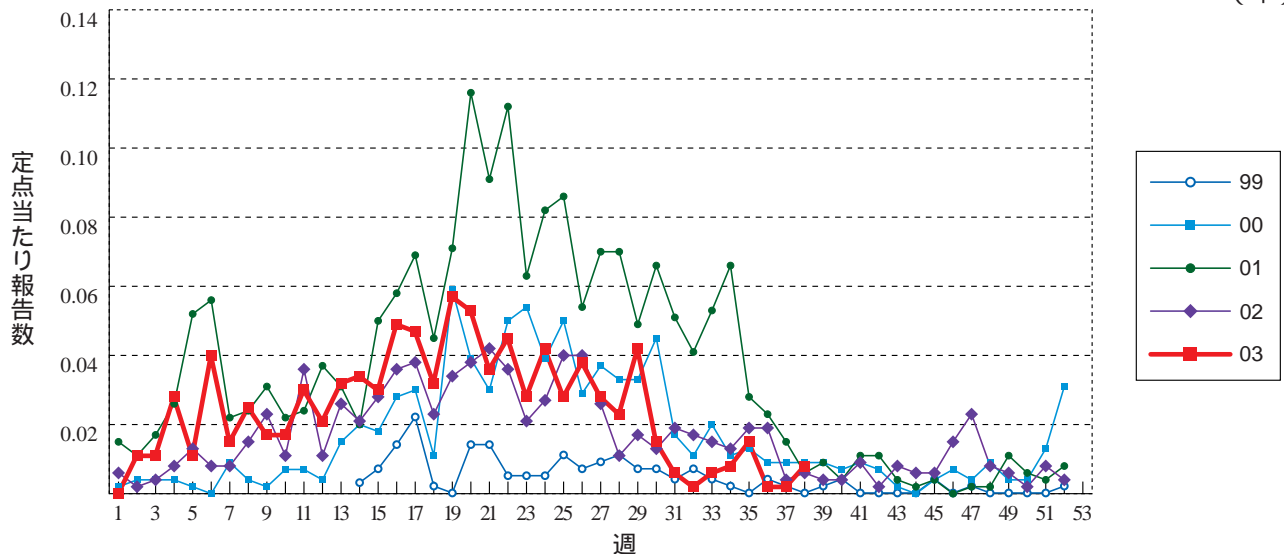
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





38週のデータ

注) 表中の報告数は9月25日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成15年38週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15	10	343	1	43	2	25
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	1	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	2	71	-	15	1	5
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	23	-	-	1	5
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	15	-	2	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	18	1	3	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	22	-	3	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	24	-	2	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	17	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	45	1934	5	362	-	15	-	-	-	35	-	-	1	529
北海道	-	-	-	-	1	32	-	6	-	14	-	-	-	1	-	-	-	13
青森県	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	43	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12
宮城県	-	-	-	-	6	38	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
秋田県	-	-	-	-	2	51	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	15	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	24	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	-	1	10	-	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	22	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
埼玉県	-	-	-	-	1	57	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
千葉県	-	-	-	-	1	83	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	2	137	-	88	-	-	-	-	-	2	-	-	-	56
神奈川県	-	-	-	-	3	51	-	33	-	-	-	-	-	4	-	-	-	27
新潟県	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	90	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
福井県	-	-	-	-	-	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	10	1	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	1	31	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
岐阜県	-	-	-	-	-	57	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
静岡県	-	-	-	-	-	29	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
愛知県	-	-	-	-	2	65	-	31	-	1	-	-	-	2	-	-	-	20
三重県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	53	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	5	131	1	53	-	-	-	-	-	8	-	-	-	54
兵庫県	-	-	-	-	1	131	-	6	-	-	-	-	-	4	-	-	1	28
奈良県	-	-	-	-	1	13	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9
和歌山県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7
鳥取県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	3	79	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
広島県	-	-	-	-	-	26	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	20
山口県	-	-	-	-	1	36	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	13
徳島県	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	1	28	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
高知県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	1	189	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
佐賀県	-	-	-	-	-	32	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
長崎県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	-	85	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮崎県	-	-	-	-	11	44	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	-	40	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	6	-	-	-	5	1	81	-	43	4	624	-	1	-	71	-	-
北海道	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	6	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	14	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	27	-	-	-	1	-	-
東京都	-	1	-	-	-	4	-	11	-	4	2	251	-	-	-	25	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	48	-	-	-	10	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	17	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	36	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	12	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	6	-	1	1	56	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	13	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	6	-	-	-	2	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	16	-	1	-	-	-	136	-	22	2	35	-	-	-	-	-	5	348
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7
東京都	-	4	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	1	54
神奈川県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	9
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	19
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	55
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	-	-	-	-	-	-	10
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	8
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	9	-	-	-	-	-	1	10
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	50	-	45	-	-	-	-	-	-	-	-	1	53	-	4	1	109
北海道	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
群馬県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
千葉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	13
神奈川県	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	6
新潟県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
石川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
広島県	1	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	12	0.00	906	0.30	1338	0.44	6409	2.11	1414	0.47	5086	1.68	327	0.11	2496	0.82	27	0.01
北海道	-	-	9	0.06	110	0.76	157	1.08	53	0.37	227	1.57	35	0.24	92	0.63	1	0.01
青森県	-	-	-	-	15	0.36	56	1.33	15	0.36	136	3.24	3	0.07	21	0.50	-	-
岩手県	-	-	2	0.05	12	0.32	33	0.87	17	0.45	252	6.63	2	0.05	16	0.42	-	-
宮城県	-	-	7	0.12	26	0.44	146	2.47	41	0.69	140	2.37	25	0.42	57	0.97	-	-
秋田県	-	-	-	-	15	0.43	46	1.31	9	0.26	204	5.83	3	0.09	21	0.60	-	-
山形県	-	-	10	0.33	46	1.53	68	2.27	16	0.53	81	2.70	-	-	33	1.10	-	-
福島県	-	-	2	0.04	25	0.52	126	2.63	39	0.81	181	3.77	-	-	41	0.85	2	0.04
茨城県	-	-	-	-	19	0.26	112	1.51	43	0.58	67	0.91	5	0.07	42	0.57	-	-
栃木県	-	-	2	0.04	10	0.22	72	1.57	22	0.48	100	2.17	8	0.17	33	0.72	-	-
群馬県	-	-	25	0.40	30	0.48	103	1.66	50	0.81	122	1.97	13	0.21	46	0.74	-	-
埼玉県	-	-	37	0.24	82	0.53	350	2.24	91	0.58	198	1.27	16	0.10	141	0.90	4	0.03
千葉県	-	-	17	0.13	94	0.75	201	1.60	55	0.44	176	1.40	12	0.10	79	0.63	2	0.02
東京都	-	-	17	0.12	40	0.28	285	2.01	50	0.35	109	0.77	11	0.08	85	0.60	-	-
神奈川県	-	-	61	0.29	81	0.39	383	1.85	90	0.43	208	1.00	43	0.21	209	1.01	-	-
新潟県	-	-	12	0.20	23	0.38	126	2.10	57	0.95	193	3.22	11	0.18	46	0.77	-	-
富山県	-	-	8	0.28	14	0.48	119	4.10	16	0.55	55	1.90	1	0.03	23	0.79	-	-
石川県	-	-	-	-	7	0.24	102	3.52	17	0.59	29	1.00	2	0.07	26	0.90	-	-
福井県	-	-	7	0.32	18	0.82	68	3.09	11	0.50	29	1.32	7	0.32	15	0.68	-	-
山梨県	1	0.02	-	-	1	0.04	22	0.88	9	0.36	56	2.24	7	0.28	13	0.52	1	0.04
長野県	-	-	15	0.27	35	0.64	103	1.87	16	0.29	210	3.82	7	0.13	39	0.71	1	0.02
岐阜県	-	-	50	0.94	9	0.17	74	1.40	16	0.30	54	1.02	5	0.09	42	0.79	1	0.02
静岡県	-	-	49	0.57	28	0.33	185	2.15	29	0.34	289	3.36	10	0.12	89	1.03	1	0.01
愛知県	2	0.01	22	0.12	83	0.46	327	1.80	81	0.45	197	1.08	32	0.18	161	0.88	4	0.02
三重県	-	-	14	0.31	30	0.67	165	3.67	15	0.33	35	0.78	4	0.09	59	1.31	-	-
滋賀県	-	-	25	0.78	11	0.34	32	1.00	11	0.34	24	0.75	2	0.06	25	0.78	-	-
京都府	-	-	13	0.17	14	0.18	209	2.75	18	0.24	44	0.58	2	0.03	36	0.47	1	0.01
大阪府	-	-	51	0.26	47	0.24	405	2.08	62	0.32	105	0.54	3	0.02	133	0.68	4	0.02
兵庫県	1	0.01	50	0.39	38	0.30	329	2.57	55	0.43	205	1.60	12	0.09	111	0.87	1	0.01
奈良県	-	-	12	0.43	11	0.39	61	2.18	20	0.71	28	1.00	1	0.04	30	1.07	-	-
和歌山県	-	-	8	0.26	14	0.45	49	1.58	13	0.42	24	0.77	1	0.03	19	0.61	1	0.03
鳥取県	-	-	15	0.79	29	1.53	69	3.63	11	0.58	59	3.11	1	0.05	20	1.05	-	-
島根県	-	-	2	0.09	2	0.09	41	1.78	9	0.39	20	0.87	1	0.04	20	0.87	-	-
岡山県	-	-	6	0.11	27	0.50	114	2.11	21	0.39	169	3.13	2	0.04	45	0.83	-	-
広島県	-	-	41	0.55	29	0.39	190	2.53	36	0.48	42	0.56	6	0.08	61	0.81	2	0.03
山口県	-	-	19	0.39	38	0.78	176	3.59	34	0.69	100	2.04	1	0.02	60	1.22	-	-
徳島県	-	-	8	0.35	8	0.35	27	1.17	3	0.13	30	1.30	-	-	17	0.74	-	-
香川県	-	-	20	0.63	5	0.16	77	2.41	11	0.34	9	0.28	-	-	25	0.78	-	-
愛媛県	-	-	74	1.90	14	0.36	106	2.72	25	0.64	130	3.33	1	0.03	43	1.10	-	-
高知県	-	-	37	1.19	9	0.29	52	1.68	11	0.35	54	1.74	2	0.06	10	0.32	-	-
福岡県	-	-	40	0.33	63	0.53	389	3.24	56	0.47	182	1.52	7	0.06	141	1.18	-	-
佐賀県	-	-	14	0.61	19	0.83	29	1.26	8	0.35	23	1.00	1	0.04	34	1.48	-	-
長崎県	5	0.07	7	0.16	10	0.23	63	1.43	20	0.45	87	1.98	-	-	26	0.59	-	-
熊本県	-	-	26	0.53	18	0.37	92	1.88	27	0.55	188	3.84	1	0.02	51	1.04	1	0.02
大分県	-	-	31	0.86	40	1.11	122	3.39	27	0.75	58	1.61	3	0.08	42	1.17	-	-
宮崎県	-	-	11	0.30	23	0.62	169	4.57	39	1.05	24	0.65	8	0.22	50	1.35	-	-
鹿児島県	3	0.03	30	0.51	11	0.19	163	2.76	24	0.41	107	1.81	3	0.05	47	0.80	-	-
沖縄県	-	-	-	-	5	0.15	16	0.47	15	0.44	26	0.76	7	0.21	21	0.62	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成15年38週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	15	0.00	3043	1.00	48	0.02	968	0.32	24	0.04	745	1.17	2	0.00	5	0.01	61	0.13
北海道	1	0.01	283	1.95	11	0.08	30	0.21	-	-	27	0.93	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	91	2.17	1	0.02	17	0.40	-	-	10	0.91	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	93	2.45	-	-	10	0.26	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	66	1.12	1	0.02	13	0.22	2	0.18	8	0.73	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	38	1.09	1	0.03	2	0.06	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	20	0.67	-	-	8	0.27	-	-	2	0.25	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	110	2.29	2	0.04	23	0.48	-	-	22	1.83	-	-	-	-	1	0.14
茨城県	-	-	18	0.24	-	-	10	0.14	-	-	31	1.94	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	49	1.07	2	0.04	10	0.22	-	-	10	0.83	1	0.14	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	22	0.35	-	-	48	0.77	-	-	33	2.36	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	2	0.01	113	0.72	1	0.01	32	0.21	1	0.03	27	0.73	-	-	-	-	2	0.22
千葉県	3	0.02	101	0.80	3	0.02	32	0.25	-	-	30	0.88	-	-	-	-	3	0.23
東京都	4	0.03	97	0.68	5	0.04	23	0.16	1	0.07	13	0.93	-	-	-	-	4	0.16
神奈川県	1	0.00	200	0.97	-	-	44	0.21	4	0.10	63	1.50	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	140	2.33	-	-	37	0.62	-	-	6	0.67	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	54	1.86	-	-	1	0.03	1	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	23	0.79	-	-	6	0.21	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	28	1.27	-	-	1	0.05	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.33
山梨県	-	-	20	0.80	-	-	1	0.04	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	136	2.47	-	-	9	0.16	-	-	7	0.64	-	-	1	0.09	3	0.27
岐阜県	-	-	86	1.62	1	0.02	5	0.09	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	69	0.80	1	0.01	50	0.58	-	-	59	2.95	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	104	0.57	6	0.03	78	0.43	-	-	56	1.60	-	-	1	0.08	-	-
三重県	-	-	25	0.56	-	-	18	0.40	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	13	0.41	-	-	13	0.41	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.29
京都府	-	-	23	0.30	-	-	24	0.32	-	-	15	0.79	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	1	0.01	74	0.38	1	0.01	50	0.26	-	-	23	0.47	-	-	-	-	7	0.47
兵庫県	-	-	53	0.41	-	-	106	0.83	1	0.03	29	0.83	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	4	0.14	1	0.04	18	0.64	-	-	14	2.00	-	-	-	-	2	0.40
和歌山県	-	-	20	0.65	2	0.06	2	0.06	-	-	3	0.75	-	-	-	-	3	0.27
鳥取県	1	0.05	10	0.53	1	0.05	6	0.32	-	-	2	0.67	-	-	-	-	3	0.60
島根県	-	-	8	0.35	-	-	1	0.04	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.25
岡山県	-	-	38	0.70	2	0.04	15	0.28	-	-	34	2.83	-	-	-	-	3	0.60
広島県	-	-	52	0.69	-	-	11	0.15	1	0.05	32	1.60	-	-	-	-	1	0.05
山口県	-	-	15	0.31	-	-	26	0.53	-	-	7	0.78	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	21	0.91	-	-	4	0.17	1	0.25	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	39	1.22	-	-	10	0.31	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	121	3.10	-	-	6	0.15	2	0.29	35	5.00	-	-	1	0.17	-	-
高知県	-	-	52	1.68	-	-	30	0.97	-	-	12	4.00	-	-	-	-	2	0.25
福岡県	-	-	121	1.01	-	-	42	0.35	3	0.12	32	1.23	-	-	1	0.07	-	-
佐賀県	-	-	47	2.04	-	-	9	0.39	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	63	1.43	3	0.07	26	0.59	3	0.38	5	0.63	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	-	-	40	0.82	2	0.04	6	0.12	3	0.33	29	3.22	-	-	-	-	16	1.07
大分県	-	-	66	1.83	1	0.03	10	0.28	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	136	3.68	-	-	20	0.54	-	-	6	1.50	-	-	1	0.14	1	0.14
鹿児島県	-	-	40	0.68	-	-	17	0.29	-	-	7	1.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	0.03	-	-	8	0.24	1	0.10	6	0.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成15年38週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	113	0.24	-	-	4	0.01
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	3	0.50	-	-	-	-
岩手県	8	0.40	-	-	-	-
宮城県	7	0.58	-	-	-	-
秋田県	3	0.43	-	-	-	-
山形県	17	1.70	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	3	0.43	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	7	0.28	-	-	4	0.16
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.17	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	-	-
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	4	0.80	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	11	0.85	-	-	-	-
三重県	5	0.56	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	12	0.80	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	2	0.40	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	6	0.67	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	3	0.25	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	-	-	-	-
大分県	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	4	0.57	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第5巻、第38号 平成15年10月3日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。